

松戸より日光山まで  
 徳京靈山志願色画  
 寺より一巻抄形貞臣  
 孫譜より写す



松戸より日光山

寺より一巻抄

けりて東叡山跡目ふりて  
 松葉付はまはれぬ

高次郎とゆへ

水より松葉抄とよま

寺より一巻抄

道はるあまたうへ

水より松葉抄

上野のねり松葉抄をみ  
 寺より一巻抄の河あり

寺より一巻抄



此橋、何人飛のと祿の河あり  
いづれをいづれ

舟よりあつた笑のつれの体ひ  
揺りつる河の初め

いづれをいづれとあつた  
白地して  
あつた

本流村と

いづれをいづれとあつた  
いづれをいづれとあつた

追ふ

旅人あつたあつた  
いづれをいづれとあつた

野流

いづれをいづれとあつた  
いづれをいづれとあつた

村の名は野流のあつた  
いづれをいづれとあつた

大台川

浪りあつたあつた  
いづれをいづれとあつた

いづれをいづれとあつた

すゝめやまを八台川の氷

山あり  
うたまうあり

藍より  
みる 塵也

阿を割れ  
あり

神の御指を

いほ日のおしりをはかして  
あつこる

阿を御指を  
よき目くらまぬ

合満あり

石を布しなるはつとるはつとる

山とみはりの布、みとるはつとる

二つと  
まじわらぬ

合み  
あつこる

満ぬるはつとる  
あつこる

こころ

御山仁王門あり

日此のうら若ふおあふと  
あつこる

東よりすく官あつこる

中禪寺(中)道に

知遊(中)道に

海路に  
あつこる

幼遊 桑海

これ

あり

海面に  
行く松林  
の中志向  
なき  
なき

華嚴の境を

みはむ

御はぬおのの御法は家

いりしき名をたれし

中隠者にて遊その心

池原き 庭ふ

いりし

あぢや

むま

寺の

いりし

湖

西芳降道た

於こ

山

院の

いり

あぢの

いり

日一花泉をみ

つたまはれの

なき

いり

いり

日し花泉をみて

つぼたきはれの

糸も刺れ

よのまふ

若おれりら舞

あはれ

家かこ石をたけのるいも坂と  
あまのやあく物さうち人

家光のみちおの屋

知らす石もび川尻をれずりも  
このうひまはたれ下も

日しあふれ

帝徳おれもあひちりけりて  
若く人さかしくさうとりみれ

海とよめる

初りあふれ若れよひも

せんあふ

あ代のふすあふれ

侍従貞辰

名... 石... 此下... 七

回... あり

帝... 礼... 此... 下... 七

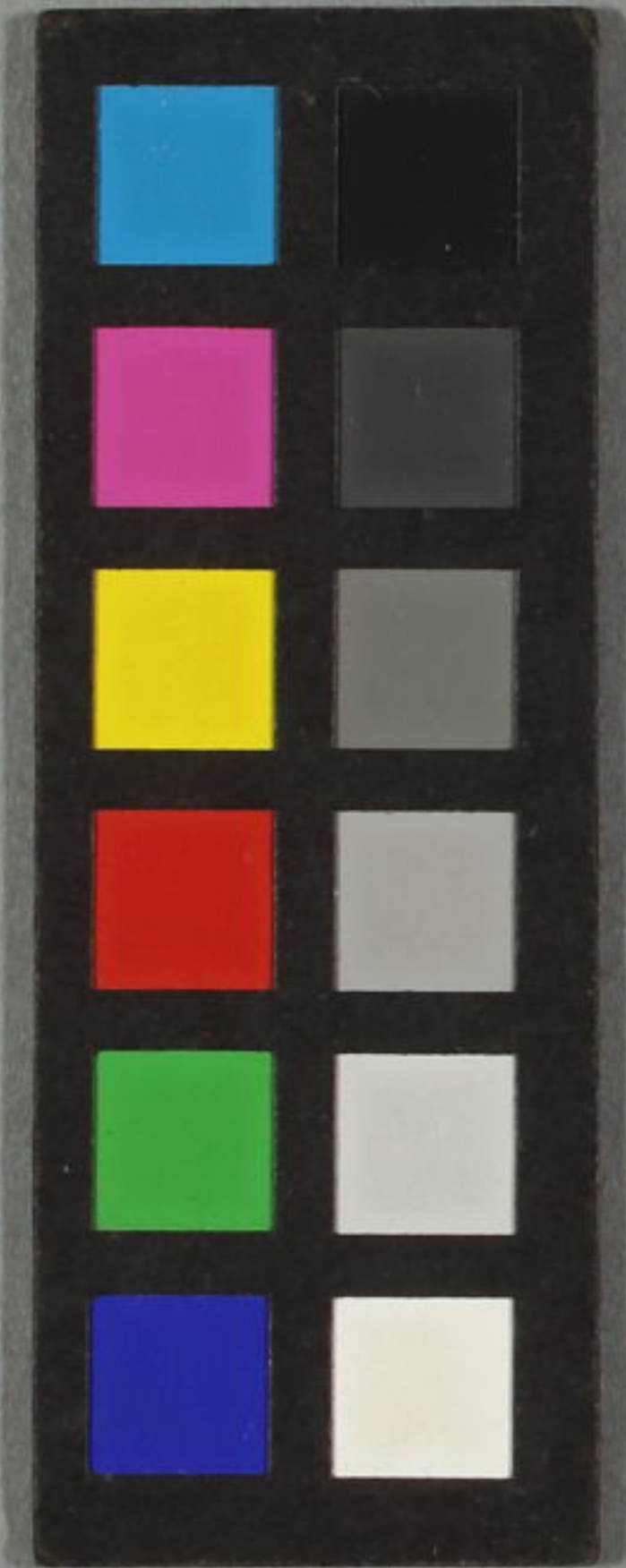
脚... あり

初... あり... 七

あり

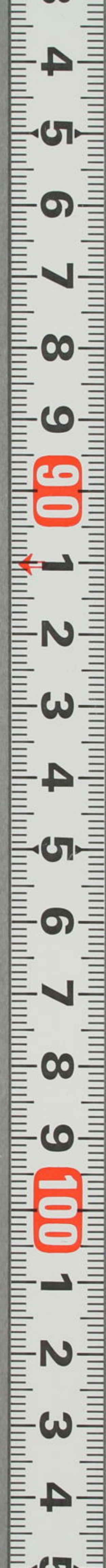
の... 代... あり... 七

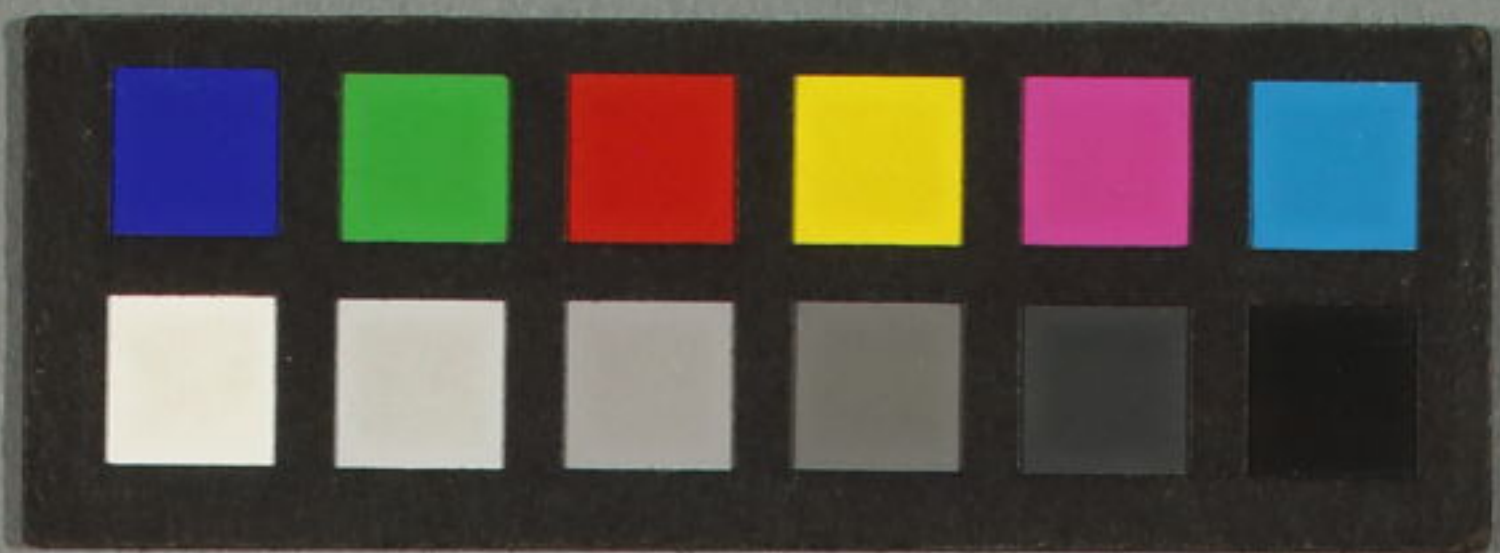
侍従貞臣



横瀬貞臣日无道中和歌

服部文庫  
イ 17  
2376





117  
2376

松戸より日光山まで  
徒京靈山志の巻色画  
を写し一巻抄紙貞臣と  
記す



松戸より日光山まで

抄紙の巻色





横瀬貞臣日无道中和歌

服部文庫

イ 17

2376

横瀬貞信



Handwritten Japanese text in cursive style, likely a signature or inscription.